
待たされて～イライラむかむか

沢山書世

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

待たされて〜イライラむかむか

【Nコード】

N3100U

【作者名】

沢山書世

【あらすじ】

行列、信号、渋滞といった、日常否応なしに待たされて、イライラむかむかさせられてしまいがちな場面での、おすすめできない待ち方と、上手な待ち方を、もっともらしく解説してあります。使えるそんなものが含まれておりますが、怖くて試せそうもないものもあります。読むだけにしておいてください。

（前書き）

共感していただけると嬉しいです

みなさん、いつも待たされていませんか？ イライラさせられていませんか？ うんうん、そうでしょう。え？ なんとかならないかですって？ なりますよ。え？ 方法を知りたい？ 早く教えろですって？ やっぱり待てないんですねー。いいですとも、みなさんのような人にとってこそ必要なのですから。

毎日起こるすべての出来事が、自分の望むとおりに進行するなどということは夢物語の中でしかありえようのないことでしょう。現実にはわたしたちが暮らしている日常の生活はどうかと眺めてみると、あるはあるは、自分の思い通りにいかない場面であふれかえっています。毎日、しょっちゅう、これでもくらいやがれといった具合に、嫌というほど出くわします。スーパーのレジの行列、なかなか変わらない信号、やってこない電車など、様々な場面で、いやおうなしに待たされることを、来る日も来る日も誰もが味あわされます。このような状態は、けして居心地の良いものではありません。抵抗のしようがないものと諦めて、事態を成り行きに任せることができるのであれば、これは精神衛生上まことに好ましい対応といえるでしょうが、急いでいるときなどは、待つことは避けられないことと解ってはいつつも、人や物に対して、やりどころのない怒りをぶつけてしまいたくなり、己の身勝手さを思い知らされたりします。できることなら待たないですむ世界で暮らしたい。それが無理な注文だというのなら、せめて、待つ苦しみを和らげたい。この、万人の持つ願いをかなえることはできないのでしょうか。来る日も来る日も幾度も幾度もイライラさせられることはこれからもずっと避けられないのでしょうか。

自分ではどうにもしようがないことは、「待っていれば、いいだ

け、成るように成るさ」と、人生を達観できるような人物の領域には、凡人ではなかなかにたどり着けません。昨今頻繁に見受けられるような、他人にちよつと邪魔をされただけでも、「なんだこの野郎」と思ってしまう習慣が心底しみついていて人ならなおさらです。そんな人はそもそもそうなる日が来ることすら待てないでしょうし、また、待てたとしても、そのような人にはそうなる日が来るとも思えません。

このさい、「人間性を変えることは、たとえ生まれ変わったとしても自分には無理なこと」とさつさと諦めてしまい、その場その場に合った方法を駆使して、上手に乗り切っていきましょう。なーに方法は簡単、上手にやっている他人の知恵を使わせてもらえばよいのです。そして、待つという苦しみから自分を解放してあげましょう。

人は待たされているとき、誰もが不機嫌であつたり、怒っていたりするわけではありません。そうではない場合もあるのです。たとえば、何もせずにただつつ立って待っているだけの人ですと、まだかまだかという立ちがつのるでしょうが、何かをしながら待っている人は、気分がまぎれて、待たされている時間の経過を忘れさせてもらえていることがあるのです。急いでいて時間に余裕がないときと、持ち時間に余裕があるときとは随分待っているときの気分は違うものとなります。期待を持ちながら待っているときと、期待をしていないときとは、心臓への負担が違います。予定通りに進んでいる時の待ち時間と予定よりも遅れている時の待ち時間の進み方。こちらが急いでいるのに相手が急いでくれないときの時間の進み方。我慢しているときの時間の進み方。つまり、その人が待っている時の状況、過ごし方、心持ちによって、待っているときの気分や時間の進み方は随分と違ったものとなるのです。

さあ皆さん、その場に合った工夫をとりいれて、待たされる時間

を上手に乗り切っていくでしょう。ここでは、ついやらかしてしまいがちな不正解の様子と、模範となる解答をいっしょに見ながら学習していきます。

レジ

五人、十人と大勢の人がレジに並んでいるときは、待つことは仕方のないこと、と諦めもつくのですが、もうすぐ自分に順番がまわって来る段階、そう、列の三番目あたりに自分が位置しているときに、列がスムーズに動いてくれない場面と運悪く遭遇してしまう、これはイライラさせられるものです。レジで交わされている店員と客とのやり取りのすべてが目にも耳にも入ってきます。

リヨウジの場合を見てみましょう。

店員が商品の値段を集計し、請求額を客Aに伝えています。

「九百九十九円になります」

客Aが小銭入れに指を突っ込みながら、

「ちよつと待つてくださいね」

と店員に告げました。列の中でその状況を目にしながら待たされているリヨウジは、心の中で、

（小銭を数えて出すよりも、千円札を出しておつりを一元もらった方が手間がかからないだろうに）

と思っているんですね。

店員に待てと一言告げれば、他人をいくら待たせることになったとしても一向に構わないと思っている客Aは、小銭入れをじゃらじゃらといじった挙句、請求額には百円足りないことに気付いたようです。小銭での支払いは諦めて今度は上着の内ポケットから札入れをとりだしましたよ。

リヨウジは思いました。

（小銭が足りないのなら最初からそうやって千円札を出せばいいんだよ、無駄に待たせやがって。ぴったりの金額を用意してから家を出てこいとまでは言わないが、せめて、自分の財布の中にいくらあ

るかを確認してから列に並んでくれよな)

この時点でリヨウジは客Aの札入れからは千円札が出されることを想像していたようですね。ところが、おおっと、よりによって客Aは一万円札を手に取り、店員に差し出しました。リヨウジの予想は甘かったようです。

(おいおい、ここで一万円札を出すかよー、おつりはなんと九千九百一円だぜー。勘弁してくださいよー)

そう言いたくもなるでしょう。

(お金を差し出す今の今までしこたま待たされたうえに、今度はおつりの勘定でまた待たされるのかよ)

リヨウジは実際には何も言えず、ただ客Aと店員のやり取りが終わるのをイライラしながら待っていたのでした。

さあ、リヨウジと同じタイプのあなた、想像しただけでもストレスで胃が痛くなりそうな場面ですね。そんなあなたがイライラせずに待つ方法があるんです。問題は並んだ列にありました。リヨウジの場合は、自分が並ぶレジの列を選ぶ時点で、すでに間違えを犯していたのです。リヨウジは最も空いている列を選び、そこに並びました。これは常識的な選択と言えるでしょうが、空いている列に並べばうまくいくというわけでないことは、今証明されましたね。

行列の長さは考慮しません、無視です。注目すべきはレジにいる担当者です。かわいい女子が担当しているレジを選んで、そこに並ぶことが正解です。

こういった列に並べば、たとえ前の客が支払いに百万円札を使おうとも、すべて一円玉で支払おうとも、待っている間、ずっと好みの女の子を眺めていればいいのですから、待ち時間の長さなど、ちっとも気にはなりません。目的が、支払いを済ませることではなく、女の子を眺めることにあるわけですから、待っているという感覚ですらなくなります。イライラには結びつかない、むしろ幸せな気分です。ですから、たとえ一時間待たされることになったとしてもいっこうに苦にはなりません。できることならこのままずっと

並んでいたいと思えるように心境が変化していくことでしょう。

もしもあなたの意に反して列の流れがスムーズになってしまったときには、自らが客Aの方法を使って、時間を長引かせることが効果的です。箸をもらったり、領収書の発行をお願いすれば、より長い時間をその子と一緒に過ごすことができます。その店が二十四時間営業の店舗であれば、閉店時間を気にする心配がないので、お勧めです。

バス

乗車を予定していたバスがタッチの差で行ってしまった。次のバスが来るのはなんと十五分後。自分一人だけがバス停に取り残され、（なんでこんな目にあわされるんだ！）と、被害者意識にたつぷりと浸らされる、こんな場面、思いあたるでしょう。

リョウジの場合を見てみましょう。

「十五分間も、ここでじっと待っているって言うのかよ。もうちょっとゆつくり到着してくれてもよかったんじゃないのかー」

と、行ってしまったバスに対して怒ってみたり、

「あと一分早く家を出ればよかったなー」

と自分を責めたりしています。ふてくされながらも、待つしかないのかなと、諦めかけたとき、彼なりの名案がパツと頭に浮かんだようです。

（そうだ、今行ってしまったあのバスを追いかけよう。次のバス停まで走って、あのバスに追いつき、乗ってやろうじゃないか）

という考えです。グッドアイデアの出現で気を取り直した彼はそれを即実行に移しました。はじめから軽快な走り、先行するバスとの距離を幸先よくグングンと縮めていったリョウジでしたが、残念なことに途中の信号につかまってしまい、再びバスに引き離されてしまいました。これが痛かった。停留所前で猛ダッシュをかけたものの、とうとうバスには追いつけず、乗れずじまい。結局汗だけになった状態で待たされ、次に来たバスに乗ることになったので

した。

走行するバスを追いかけるといふ行為にはリスクがあります。バスは最速スピードが人間よりも早いうえに、そのスピードを疲れることなく持続できるのです。生身の人間には不利ですね。また、運転手もある意味レーサーなので、みすみす人間に追いつかれるようなことは本能的に嫌います。がんばってバスを追いかけている自分に気付いた運転手さんは、きっと待っていてくれるはずだななどはゆめゆめ思わないことです。

加えて、追いつけなかった場合に受けるダメージはおおきなものとなります。なにせ身体的な疲れと精神的な落胆が同時に襲ってきますから。リョウジの場合それが朝一番の出来事であったため、出社前にすでに疲れ果ててしまい、終日にわたってそのダメージが尾を引いてしまいました。

では、正解です。

ひとつ手前のバス停に向かって歩いて行きましょう。目的地とは逆方向へ戻る形となり、一見すると損な行為にうつりますが、この行為は待っている時間を削減することができるうえに、おまけの効果も期待できます。こちらに向かってくるバスを迎えに行つてあげるといふ、優しい気持ちがあくまれます。体を動かしていれば気もまぎれますし、普段見慣れていない風景の中に新しい発見を得られるかもしれません。度重なる遅刻が原因で解雇になった場合を想定し、次の就職先を探しながら歩いてみることも実用的でよいでしょう。

渋滞中のバス

バスは自家用車のように、道路状況にあわせた臨機応変な行動をとることができません。渋滞にはまってしまったからといって、バス路線から外れて抜け道を行つてくれとお願いしても運転手は聞き入れてはくれないでしょう。流れにゆだねるしかないかとあきらめて、気分転換がてらにぼんやりと外の景色を眺めていると、逆に、

脇道からバス路線に入ってくる車があったりし、しかもそれがまた、やたらと目についてしまいます。ますます道が混雑していくように感じて、気分転換になるどころかむしろ余計に腹が立ちます。渋滞にはまったバスの到着を上手に待つ方法はないのでしょうか。

リヨウジのとった行動を見てみましょう。

同じ待つならここはひとつ楽しんで待とう、とリヨウジは思いました。通路にすくと立ち、即席バスガイドを始めたようです。

「右手に見えますのが窓ガラスです」

などとはつまらないことを、出だしから言ってしまいました。

渋滞のイライラで怒りが爆発しそうなところに火花を飛ばしてしまったようなものです。気の短い客Bの導火線に真っ先に火が付いてしまい、怒鳴り散らされてしまいました。

「黙って座っている。余計にイライラさせるようなことをするんじゃない」

「なんだとー、こっちは良かれと思ってやっているんだ。なにこそまで言うことはないだろー」

ほかの乗客もイライラしていたところに始まった二人の喧嘩です。次々に引火してしまいました。

「うるさい」

「静かにしろ」

「なんだとー」

けんかは駅に到着するまで続いたのでした。

もうお気づきですね。リヨウジのような素人がバスガイドをすることは危険ですので、お勧めできません。

客Bのとった行動、そう喧嘩をすることが正解です。喧嘩になってしまえば他のことになどかまってはいただけませんから、バスが遅れていることへの不満なんぞは、どこかへ飛んでいってしまいます。みんながイライラしているので、たとえきつかけは何であろうとも簡単に喧嘩の火が付きますから、手軽です。ただ、日常よく顔を合わせる人たちが多く乗り合わせる通勤バスの場合には、注意が必要

です。幾度もお世話になるわけですから、けがをされては困りますね。手は出さず、口げんかに押さえておきましょう。

飲食店の行列

評判のお店で人気メニューを食してみたい。雑誌やテレビで紹介された店で食事をしてみたい。こんな思いつきでつい不用意に出向いてしまうと、とんでもない目に合わされることになります。同じ思いつきをする人は、世の中には大勢いますので、そのようなお店では、長時間待たされることをまずは覚悟しなければなりません。到着した、注文した、食べるといふ行為の流れが、行きつけの定食屋と同じ感覚でリズムカルに進むことはありません。長い行列があり、まず入店する段階から、待たされます。食べたいものがすぐそこにあるのにお預け状態を余儀なくされるというのは実に苦しいことです。いつ廻ってくるか解らない順番を待つことと空腹と、二大苦が同時にあなたを襲い続けます。

リヨウジの場合を見てみましょう。

おや？ なにやら満足気な表情で並んでいます。お腹はすいていないのでしょうか。

「並ぶ前に腹ごしらえをしてきたんですよ。いつ自分に順番が回ってくるかわからないのですから、それなりの準備はしておかなくっちゃ。空腹のままでは体が持ちませんからね」

行列に並んでから数時間後のリヨウジ、

「腹が減ってきたなー、さっき大盛り食ったときゃー良かったかなー。もー我慢できねー」

結局、訪れた空腹に耐えきれず、せっかく並んでいた行列から抜けて、牛丼屋へと向かったリヨウジ。あと五人待てば入店ということころまでしながらリタイアとなってしまったのです。名案と思われるリヨウジの作戦は残念ながら失敗に終わりました。

正解は、この行列に並んでいる生き残った人たちを見ることです。かります。

脱落せずに生き残っている人たちは手に手におにぎりを持ち、ぱくついていたのです。空腹に襲われた時、列を離れてしまつては負けです。弁当を持参して、食べながら待つことが、せっかくゲットした順番を死守することにつながります。腹が減つては戦はできません。懸念されるのはやつと自分に順番が巡つて来たのに、満腹でもう一口も入らないといった場合ですが、そんなときは、諦めずに並びきつたという達成感を味わいましょう。

エレベーター

ビルのエレベーターは常に動いています。自分が乗り込むのをおとなしく待つていてはくれません。エレベーター前に到着した時点では、たいていはビルのどこか、自分のいないフロアのどこかにおり、しかもだんだん遠ざかっているものです。

最近のエレベーターは、ドア上の表示板で数字が点滅してくれて、どのフロアにあったとしても現在位置を確認できるタイプが一般的でしょう。みんなが口を半開きにしながら数字の動きを眺めて到着を待ちます。あの、断続的に停止する数字を見つめる行為はイライラの元で、各駅停車などされた日にはうんざりさせられるのですが、つい眺め続けてしまうものです。階段で行った方が早かったのではないかと途中で後悔したりもします。

リヨウジの場合。

バッグから本を取り出しましたよ。おや、読み始めましたね。大丈夫でしょうか。エレベーターの実際の待ち時間は、体感時間よりも短いものです。人によつては10倍の差があるといわれています。さあ、エレベーターが到着しましたよ。みんなゾロゾロと乗り込んでいきますが、あつリヨウジはまだ気づいていないようです。あー、エレベーターはドアを閉じ、リヨウジを残して行ってしまいました。どうやら待ちくたびれて読み始めた本の中の世界に、意識がどっぴりと入り込んでしまったようです。その後もエレベーター

はリヨウジ以外の人を乗せて、何往復もしています。まだ通勤途中だということを、出社時刻までに気付いてくれればよいのですが。では正解を見てみましょう。

大事なのは視線をエレベーターからそらさないことです。リヨウジのように、視線を本に持っていてしまえば、エレベーターの到着を見逃してしまう危険があるのです。

エレベーターの待ち時間は実際の待ち時間よりも長く感じることは先ほどお伝えしました。が、どんなに待ったとしても三分です。ずいぶん待ったと感じたとしても、実際に待っているのは三分以内なのです。ちなみに、日本の歌の長さは一曲あたり概ね三分です。ここは歌って待ちましょう。一緒に待っている人たちの退屈しのぎにもなります。心配なのは、歌い終わらぬうちにエレベーターが到着してしまう場合ですが、ご安心ください。エレベーターが到着してしまっても大丈夫、途中でやめなくても続きは中で歌えます。テレビやラジオで昼夜問わず、頻繁に流されていることでも分かるように、歌を好む人は多いものですから、同乗者も、喜んで聴き入ってくれるはずです。最後まで歌いきってあげるのが、むしろ親切だといえるでしょう。

人との待ち合わせ

世の中には十回待ち合わせをして、十回とも遅れてくる人がいます。まともに来るのは時間を間違えた時くらいです。約束通りの時間にくることが損だとも思っているのでしょうか。このような遅刻常習者をいつも待っていたのでは、腹が立ちますね。

一時間も遅れてきておいて、ぬけぬけと、
「待った？」

などときいてきます。

「当たり前だろ」

と言いたいところを、

「いや、今来たところ」

と、怒りを表に出せないあなたは現在までついそう答えてしまってきたことでしょう。

これはいただけません。今来たという言葉我真に受けられてしまい、遅刻はおあいこでよかったと、あなたも同罪者扱いされてしまいます。気まずい雰囲気になることを回避するために方便で使ったうそなのですが、これでは報われません。それにこういう態度をとり続けていると、相手が反省し、時間通りに来てくれるようになる日はいつまでたっても訪れません。それではあなたがあまりにも可哀そうすぎます。あなたが待ちくたびれて困っていることを、相手にわからせてあげましょう。

このようなケースに陥ってしまう人は、そうはいつでもなかなか口では言えないな、という人でしょう。大丈夫です、待っていたという状況を口で伝えるのではなく、相手に見せてそれとわかるようにしてあげるのです。

リョウジの場合を見てみましょう。

煙草を吸っていますね、マイルドセブンのようです。観察を続けていると、吸い終わった吸い殻を足元に捨てて、次の煙草にまた火をつけています。足元に、たばこの吸い殻を散乱させ、長時間待っていた状況証拠にするとといった作戦のようです。

一時間遅れで待ち合わせの相手が来ました。大量にある吸い殻の存在にどうやら気づいてくれたようです。

「なんだよ、地面が吸い殻だらけじゃねーか。こんな汚いところじゃないで、さあ、行こう行こう」

と促され、別の場所へと連れ去られてしまいました。

煙草の吸いすぎで頭をくらくらさせてまでとった努力は報われませんでしたね。そのうえ、汚いところに立っている変なやつ扱いまでされてしまったのです。

使用した煙草の種類が敗因でした。一般的な銘柄であるマイルドセブンですと、愛飲している人が大勢いるため、他人の吸い殻との区別ができません。フィルターに自分の名前を書いては吸いません

から、たとえ足元の吸い殻が山のようになっていたとしてもその他大勢の人が捨てたものと思われるのでした。相手が気付かなければ元も子ありません。思い切ってハイライトをワンカートン吸って待てばわかってくれたかもしれませんが、きつめの煙草にはたして体が耐えられるかどうか。また、相手が足元に目をやってくれない場合もあるでしょう。煙草作戦にはリスクがいっぱいありますね。

正解を見てみましょう。

あなたを見て、あなたが待っていたことを相手にすぐわからせる方法があります。酔っぱらうことです。待ちくたびれて、酔っぱらうほどお酒を飲んでしまったんだな、という証拠を相手に見せるのです。これは足元だけではなく、当人の身体全体に変化が現れるわけですから、他人が気付かないわけはありません。

飲酒量の目安は一升です。缶チューハイ一本程度の量ではへいちやらの人もおり、空振りに終わる心配がありますが、どんなに酒の強い人でも、一升飲めば酔っぱらってくるはずです。しかし酔いっぶれてしまっただけじゃありません。それでは相手に出会えてもすぐ家に送り返されてしまうため、待ち合わせた意味がなくなってしまう。また、自力で帰ることが困難で、自宅に送ってもらうことにでもなれば、そもそもの原因である遅刻常習者に借りを作ってしまいます。たとえおいしくとも、ここは二升までに押さえておきましょう。

それでも気付いてくれない手ごわい相手なら、外での待ち合わせは諦めて、相手の家で待ち合わせることにしましょう。この方法を使えば、相手がいくら遅刻したくともできません。たとえ自分の家で遊ぶ予定であっても、待ち合わせ場所は、あくまでも相手の家です。これでは待ち合わせではなく、迎えに行くということになっ

返事

人をお願いごとをしたあと、返事をもらうのは実に待ち遠しいものです。

これには、返事がイエスカノーかといった内容本体がわからないことと、いつくるのだろうというもらえる時期がわからないことと、いった二つの心配材料が含まれています。内容については相手次第ですので、どうにもしようがありませんが、返事を早くもらうことはこちらの努力次第で可能になります。

リヨウジの場合を見てみましょう。

彼は、相手に朝、昼、晩とメールを送り続けました。

「おはようございます」

「こんにちは」

「こんばんは」

どうやら、多数メールで自分のことを頻繁に意識させて、遠回しに返事を催促する作戦に出たようです。マメな奴、憎めない奴、と思ってもらう魂胆もあつたようです。

リヨウジは来る日も来る日もメールを送りつけたのですが、相手から戻されてくる返事は、

「おはようございます」

「こんにちは」

「こんばんは」

というおうむ返しのお繰り返し。

狙いが外れ、どうやらメール好きな奴としか受け取られなかったようです。しまいには、同じメールの繰り返しに、うっとうしい奴、と煙たがられてしまい、最終的には、

「もう、あなたには関わりたくない、例の件はほかに頼みました」といった内容のメールが送られてくる始末。作戦は失敗に終わつたようです。

では、正解を見てみましょう。

ここは直球勝負です。遠回しに催促しても、相手に本意が伝わるとは限りません。まず、

「明日までにリヨウジに返事をしないとあなたは不幸になります」と不幸の手紙を相手にだします。

次に夜中、相手の家に忍び込み、寝ている枕元で、

「明日リヨウジに返事をしろー」

とつぶやき、暗示にかけます。

そして翌日、こちらから出向き、

「返事をもらえるというお告げがありましたので、もらいに伺いました」

と伝えます。

この三つの直球で相手は降参です。すぐにイエスの返事をもらえるでしょう。

春

寒さの厳しい二月になると、早く春にならないかなー暖かくなつてほしいなーと思う人もいることでしょう。待ち時間の長さから言えば、行列などの比ではありません。何とかならないものでしょうか。

リヨウジの場合を見てみましょう。

彼は南国に出かけて行ってしまいました。一足早く暖かくなっている場所に自ら出向き、二か月間気持ち良く過ごそうという作戦です。ところが、こちらでも温かくなつたところを見計らって帰ってきたときには、無理を言つて長期休暇を取つたため、勤め先の怒りを買い、失業してしまっていました。早めに春休みを取つたのだから、ついでに長い夏休みも早めにくれてやると言われたようです。そして彼の家計はすぐさま氷河期に入ってしまった。

正解を見てみましょう

思い切つてカレンダーを二枚破き、見た目四月にしてしまいます。なーに気は持ちようです。今年の春は少々肌寒いように感じるが、きつと気のせいだろうとも思っていました。少々不便かもしれませんが、たった二か月の辛抱です。ホーホケキョとも叫びなが

ら、桜の枝見などをしていいるうちに二月三月は過ぎてしまいます。

夏が待ち遠しい人は、六月七月のカレンダーを破いてしましましょう。カレンダーが八月を表示していれば、梅雨時の雨が、夏のスコールに思えてじめじめ感はずっとんでくれるでしょう。

黙って指をくわえて待つていいることはないのです。あなたが動けば季節でさえもあなたの思うがままになるのです。さあ、思い立ったが吉日と言います。カレンダーに手を伸ばしましょう。そして好きな月を残して破ってしましましょう。

トイレ

外出先で突然もおした時、いつもすぐそばにトイレがあるとは限りません。緊急度がどんどん高くなっていく状態の中で、もう少し待つてくれ、出るのは待つてくれと祈りながらトイレを探す羽目になることもありましよう。やつのことでみつけたトイレに、個室が待つてくれていると助かるのですが、こういうときは、先客が個室を使用中という確率がどういうわけか、かなり高いように感じます。

しかし、たとえ空いていないからといっても、残念だった、じゃあ、用をたすのはまた後日にするか、などと後回しにするわけにはいきません。緊急解決を迫られる問題です。よく使われるネタで、俺の分もしておいてくれ、などと先客に言ってみる余裕も持ち合わせていない場合はどう対処すればよいのでしょうか。休憩時間のつれしょんとは状況が違うのです。同列のレベルで扱うことは不可能な状況なのです。

先客の表情や便器に落とされた結果でも見えれば、その様子で先客が今どの段階にあるのかの推測もつき、待ち時間をおおまかには読めるでしょう。しかし、ほとんどのトイレは密室であるため、先客の状況がつかめません。何割くらいだした段階なのか、どれだけの時間待てば出てきてくれるのか、皆目見当がつかないのです。ドアによじ登り、上からの調査を試みたところで、先客の頭が邪魔を

して、確認できません。

待ってればいずれは確実に自分の順番がやって来るのですが、それまで待ちきれるとは限らないので、我慢との戦いを強いられます。一定強度の我慢を継続して要求されるのではなく、どんどんきつくなっていく我慢を要求され続けるのですから、これは大変な戦いです。絶対に漏らしたくはない！ 必死です。時間が経過するとともにどんな人でも、表情が変わってきます。しらばっくれていた表情にだんだんと険しさが刻まれていき、形相という表現のほうのがびったりくる状態へと、顔が変化していきます。別に口や鼻から出すわけでもないのに、どういったわけか、顔の筋肉に力が入ってしまいます。太古の昔の人類がそうしており、その時代の名残なのでしょう。

リョウジの場合を見てみましょう。

「逆立ちをして時間を稼ごう。重力が味方をしてくれるはずだから、けっして出てはこないさ。俺ってあったまいー」

といってドアの前で逆立ちをし、先客が個室から出てくるのを待ち始めました。

「指で栓をして待つ方法もあるんだけど、よほど指の太い人か、あるいは手首まで入れないと安心はできませんからね。僕には向いていないかな」

と余裕のコメントをしています。

ところが逆立ち行為は頭に血を登らせてしまったため、時間がたつにつれてだんだんのぼせた状態になっていきました。続けるのは一時間が限界でした。一時間たっても先客が出てきてくれなかったため、リョウジはその場に崩れ落ち、彼のパンツの中は糞まみれになってしまいました。

ではどうすればよかったのでしょうか。

先客も人の子、こちらの窮状を訴えれば聞き入れてくれることもあります。たとえば、

「緊急です、半分出したらまた交代しますから、ちょっと一時的に貸してください」

と先客の心に訴えます。しかし、これは知人が相手であるなら良いのですが、面識のない人が相手の場合、この方法が成功する確率は二割といわれています。残りの八割が断られて、結果糞まみれになるのですから、安心な作戦とはいえません。

こういう方法をとるのが正解です。

ドアの前にお尻を出してしゃがみ、

「もう限界です。ここに出しておきますので、あとで流しておいてください」

と、個室にいる先客にお願いしてみるのです。

こうお願いすれば、先客は動かざるを得ません。頼まれても他人のブツを運びたくはないものですから、急いでドアを開けてくれるでしょう。ただし譲ってくれたといっても、一人で占有してはいけません。どちらかが出し切るまでは、交互に使用するのがマナーです。先客と気が合うようであれば、便器を交互に使用しなくても大丈夫。お尻とお尻をくっつけて半分ずつ仲良く同時に便器を使えばウィンウィンです。

信号

交差点に到着したとたんに、自分の進行方向の信号が赤に変わる。こんな目には頻繁にあいます。自分が訪れるタイミングをみはからって、誰かが信号を赤に変えているんじゃないかと疑いたくなったりします。その信号が、また、なかなか青に変わってくれない。イライラ、むかむか、まだかまだかと待たされ続けて、堪忍袋の緒が切れる寸前でやっと青に変わる。自分の怒りがピークに達しそうになったら色が変わるように、センサーでもとりつけてあるのではないかと思っています。

リヨウジの場合を見てみましょう。

信号を待っている間、足踏みをしていますね。どうやら、足を動

かし続けることで、信号待ちをしているわけではないんだと、自分をだましているようです。世の中に信号が一つだけであつたのなら、この方法をとつても良かったでしょう。しかし、たくさんの信号があるこの日本でそれをやってしまったのは間違いでした。容赦なく訪れる幾度もの信号待ちで足踏みを続けていたため、目的地に到着する前に足は疲労で何度もつり、最終的には肉離れを起こしてしまいました。

確かにイライラしながら待ち続けるのは心の健康上よろしくないでしょう。しかし、だからと言って身体をいじめてよいという理由にはなりません。

では正解です。

このさい待つことはやめてしましましょう。待つなど言っても、赤信号を無視して進めと言っているわけではありません。交通ルールを破らなくとも進めるのです。これはみなさんの盲点かもしれません。道が閉ざされてしまった場合、ほとんどの人が、あきらめて停止してしまいます。しかし道は一本ではないのです。どうかほかに道があることを思い出してください。目的地方面の信号が赤の場合は、青表示の方向に進路を変えて歩いてしましましょう。右でも左でもいいのです。このさい目的地などにかまってはいられません。まずは心と体の健康を守りましょう。健康あつての目的地なのですから。赤信号に待たされることなく歩を進めることは、実に気持ちのいいものですよ。

追伸 カレンダーを破かれた方へ

同居のご家族がいらっしゃる方は、家族の同意を取られた方がよいでしょう。説得は自己責任でお願いします。

（後書き）

最後まで読んでくださり、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3100u/>

待たされて～イライラむかむか

2011年7月5日03時31分発行